

オテズラ®
学会共催セミナー



AMGEN

第76回日本皮膚科学会西部支部学術大会
イブニングセミナー 5

日時

2024年9月7日(土)

講演 16:50~17:50

会場

E会場

(あわぎんホール 3階 展示室6~8)

開催形態

現地開催

乾癬治療におけるPDE4阻害薬の意義

座長

金澤 伸雄 先生

兵庫医科大学

講演1 16:50~17:20

付着部炎や Psoriaic Disease から考える 早め初めの内服の全身療法

演者

馬屋原 孝恒 先生

川崎医科大学

講演2 17:20~17:50

クリニックにおけるアプレミラストによる 乾癬早期全身治療の意義

演者

上出 康二 先生

上出皮膚科クリニック

*オテズラの効能又は効果は、局所療法で効果不十分な尋常性乾癬、乾癬性関節炎等です。
詳細は電子添付文書をご確認ください。

共催：第76回日本皮膚科学会西部支部学術大会 / アムジェン株式会社

OTZ248011JTB1 (2024年7月作成)

[付着部炎や Psoriatic Disease から考える 早め初めの内服の全身療法]

馬屋原 孝恒 先生 川崎医科大学

乾癬を全身性疾患として捉え治療にあたるのが注目され、Psoriatic Disease (PsD) も皮膚科医の中でも一般的に浸透してきました。尋常性乾癬において、外用で良好なコントロールを目指したい一方で、2024年4月時点で5つの内服薬が条件付きながら選択可能である点などから、外用療法はなるべく局所で留めておきたいと考えるのは行き過ぎなのでしょうか。乾癬をPsDとしてみた時に少ないながら全身に散在する紅斑局面がある場合、全身性炎症として制御すべき段階にきているのではないかとしばしば心に残ります。さらには、関節症状のはじまりとされる付着部炎を検討した際に、保険適応はあるものの、多くの内服薬が脱落します。そんな中、EULARリコメンデーションが2023としてアップデートされました。エビデンスなどを踏まえた上で本邦での内服の対応を考えた時は、アプレミラストに軍配が上がると考えます。つまり、PsDや付着部炎を考えると(局所療法で効果不十分な難治性の尋常性乾癬/乾癬性関節炎に対して)、早期そして初めての内服薬による全身療法には、PDE4阻害薬が最適解に近いと思われます。本講演では2つの視点を中心に、内服の全身療法について展開していきます。

[クリニックにおけるアプレミラストによる 乾癬早期全身治療の意義]

上出 康二 先生 上出皮フ科クリニック

和歌山県によるアンケート調査では乾癬患者の7割がクリニックを受診し、その治療は9割が外用療法単独であった。各医師の治療満足度は一般病院やバイオ承認施設では高く、クリニックでの満足度は非常に低い結果であった。乾癬を慢性炎症性疾患の一型と考えた場合、外用療法は意味がない。炎症の積み重ねにより全身の炎症性疾患が出現すると考えると可能な限り早期に全身治療が必要となってくる。乾癬は発症すると生涯にわたり持続する疾患なので、安全で慢性炎症性疾患を防ぐエビデンスのある治療が望ましい。アプレミラストはバイオと比較すると効果は劣るが、慢性炎症を防ぐ比較的安全性の高い薬で検査も必要ではないのでクリニックでも使いやすい乾癬のファーストラインの治療薬だと考える。